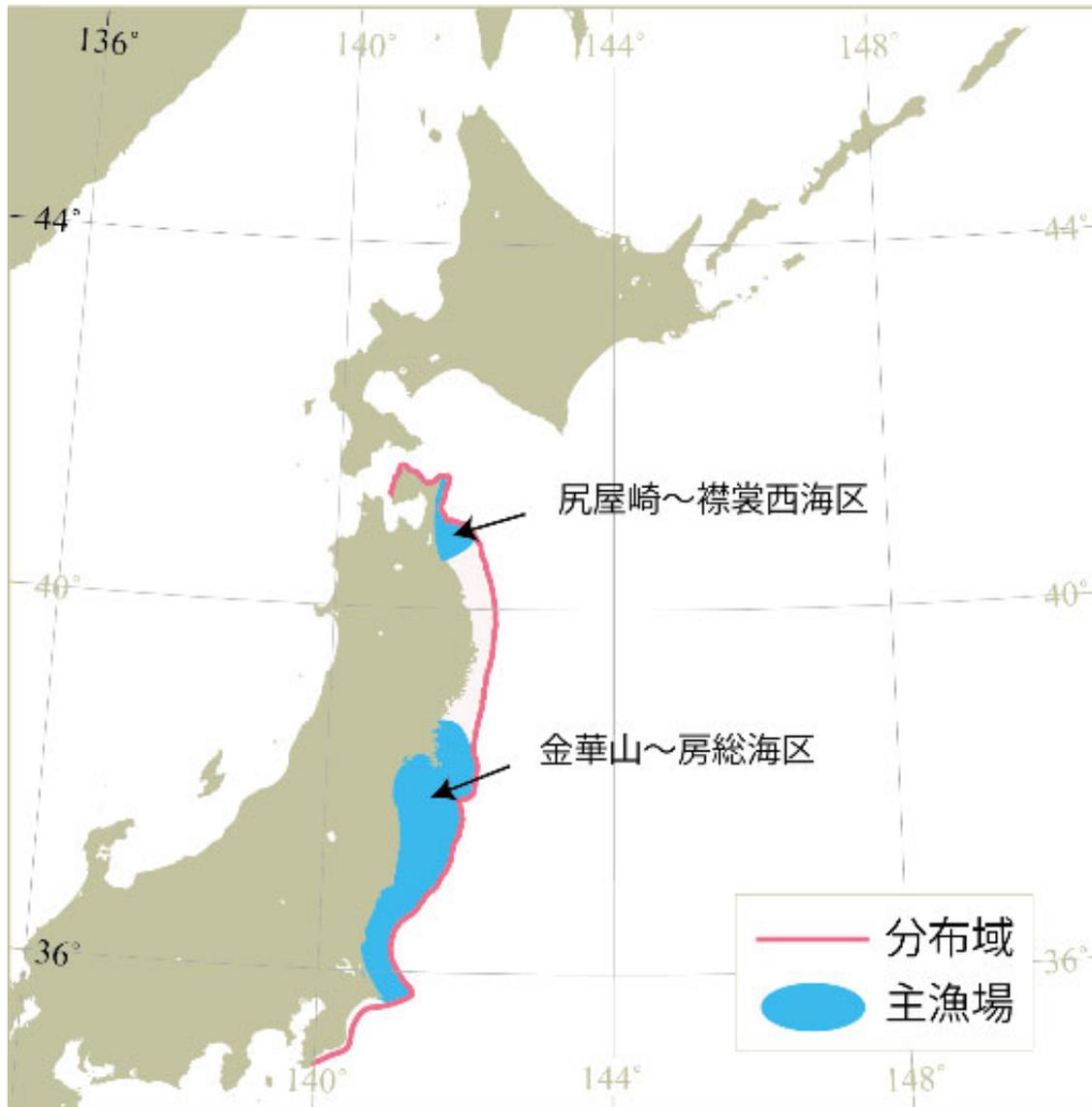




# キアンコウ太平洋北部 令和7年度資源評価結果

# 生物学的特性

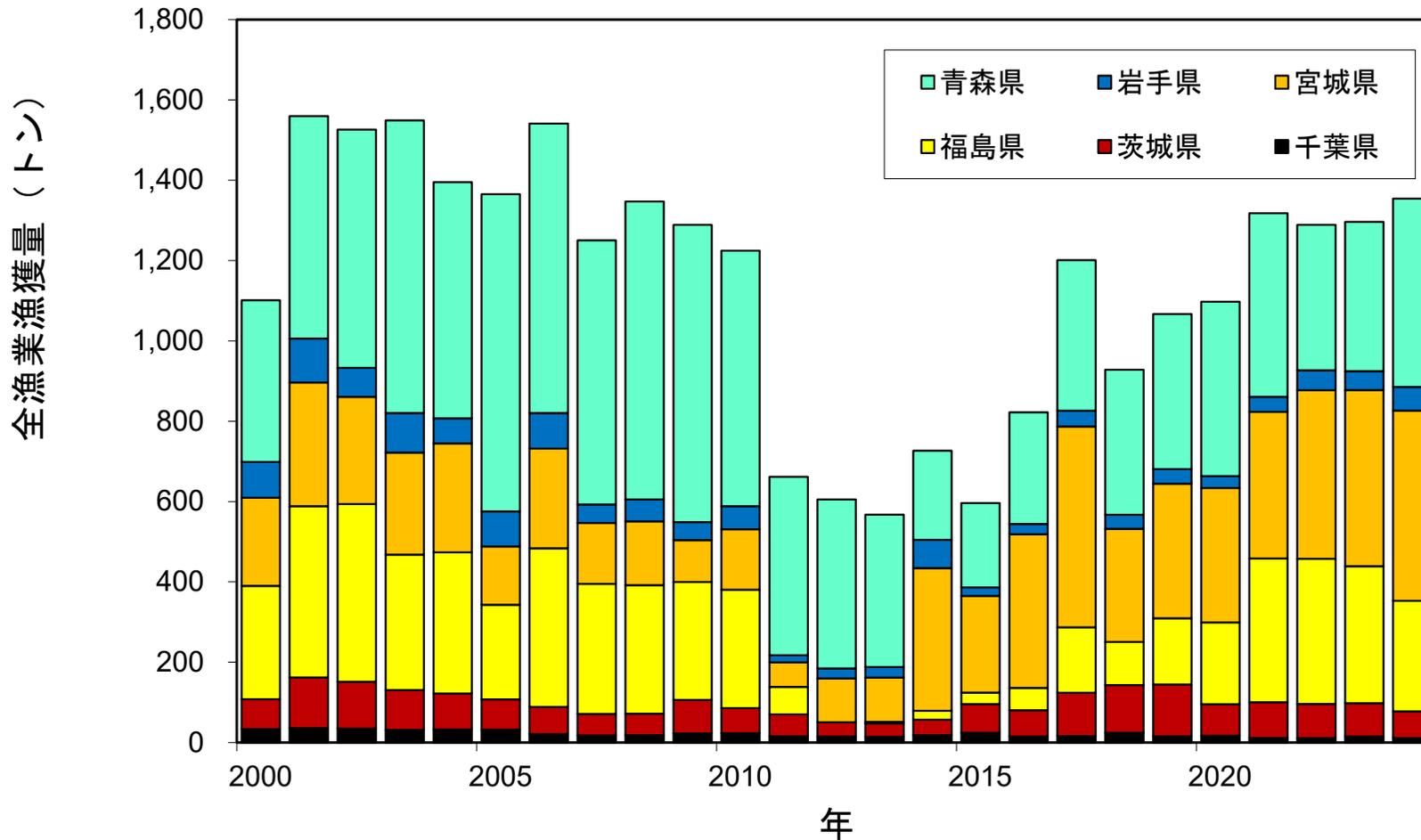


## 生物学的特性

- 寿命：報告されている最大年齢は雌23.6歳、雄19.9歳
- 成熟開始年齢：不明
- 産卵期・産卵場：  
5～6月（津軽海峡東部沿岸）、  
5～7月（仙台湾周辺）、  
4～8月（福島県中部海域）
- 食性：小型個体は小型魚類や甲殻類、成長につれカレイ科魚類、タラ科魚類、イカナゴ、カタクチイワシ、スルメイカ、トラザメなど
- 捕食者：ミズウオによる捕食例あり

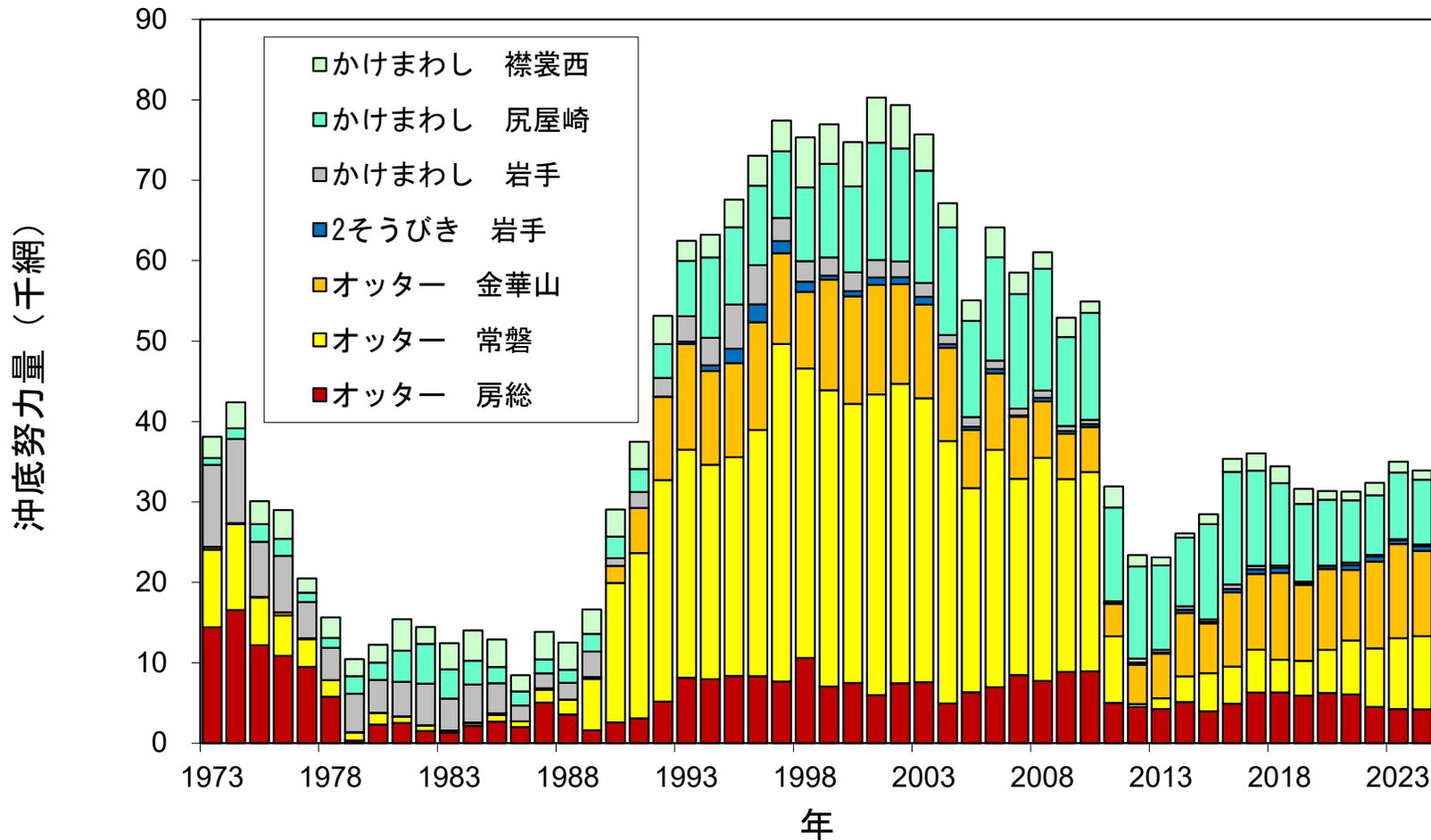
- 主漁場は尻屋崎～襟裳西海区および金華山～房総海区

# 漁獲の動向①



- 東日本大震災後、漁獲量(全漁業種合計)は500トン台に減少
- 近年の漁獲量は回復傾向 2024年の漁獲量：1,354トン
- 主漁法は沖合底びき網漁業(沖底)

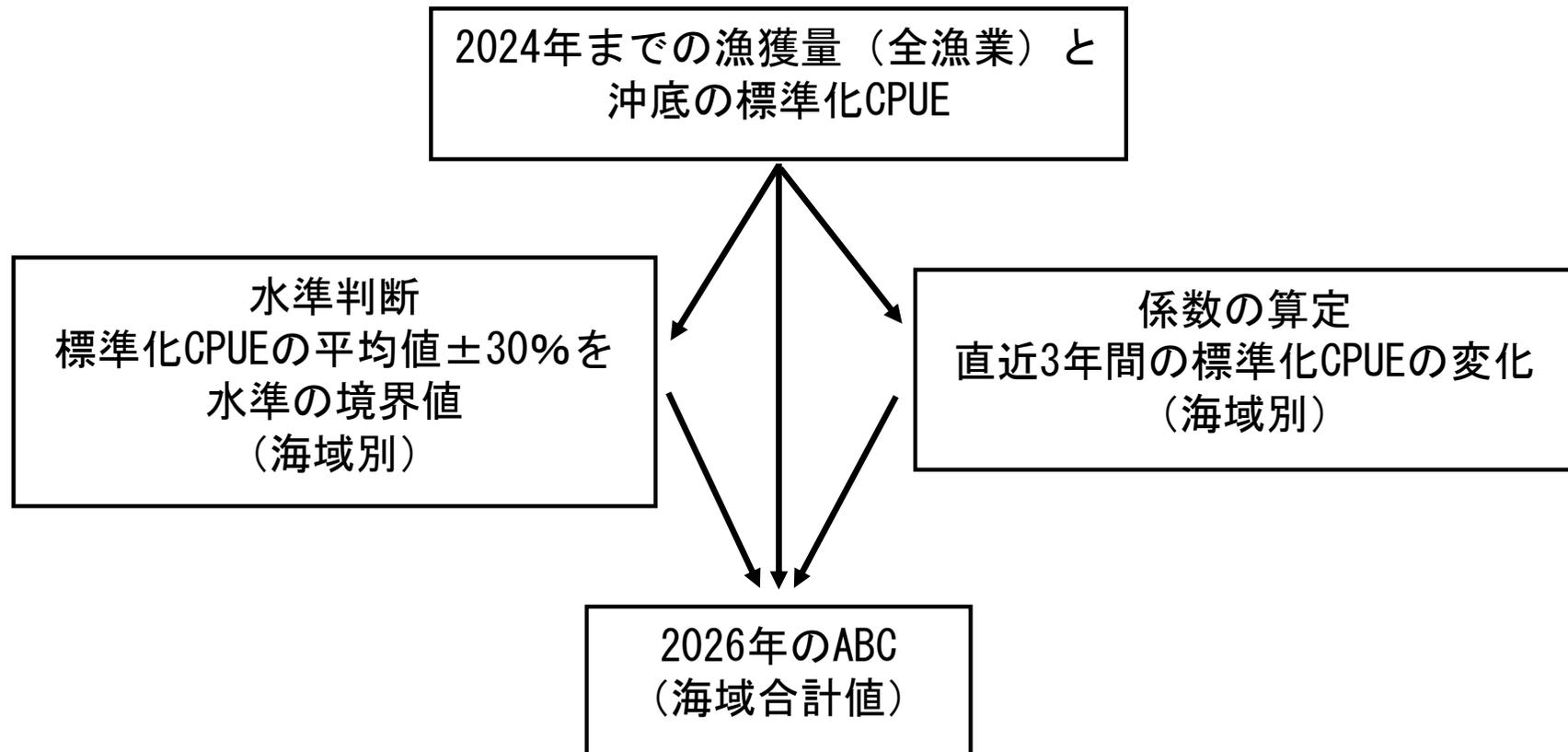
# 漁獲の動向②



- 東日本大震災後、福島県船操業停止により努力量は大幅減
- 2024年の沖底努力量：3.4万網
- 沖底努力量は有漁網数を示す

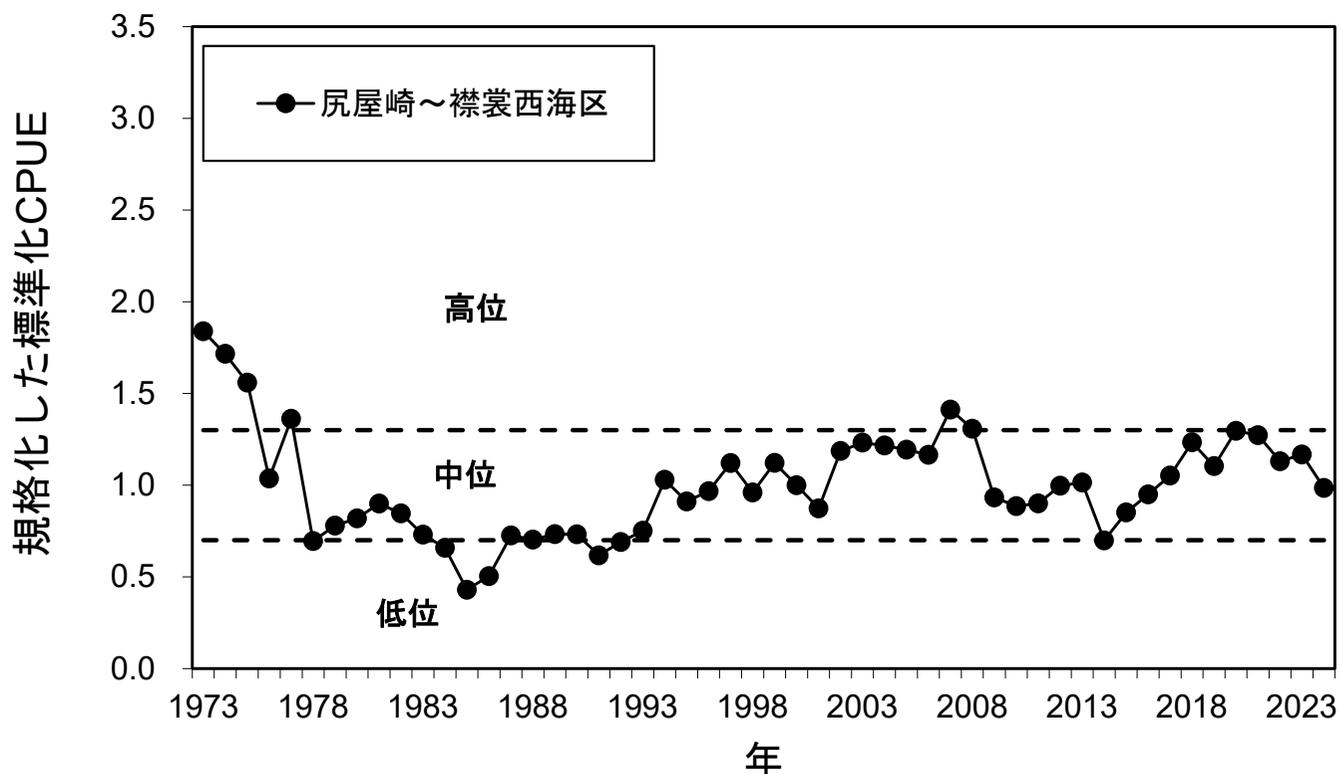
※有漁網数：キアンコウが漁獲された日の網数を集計したもの

# 資源評価の流れ



※ ABCは漁業法改正前の考え方に基づく基本規則を適用した値

# 資源の動向①

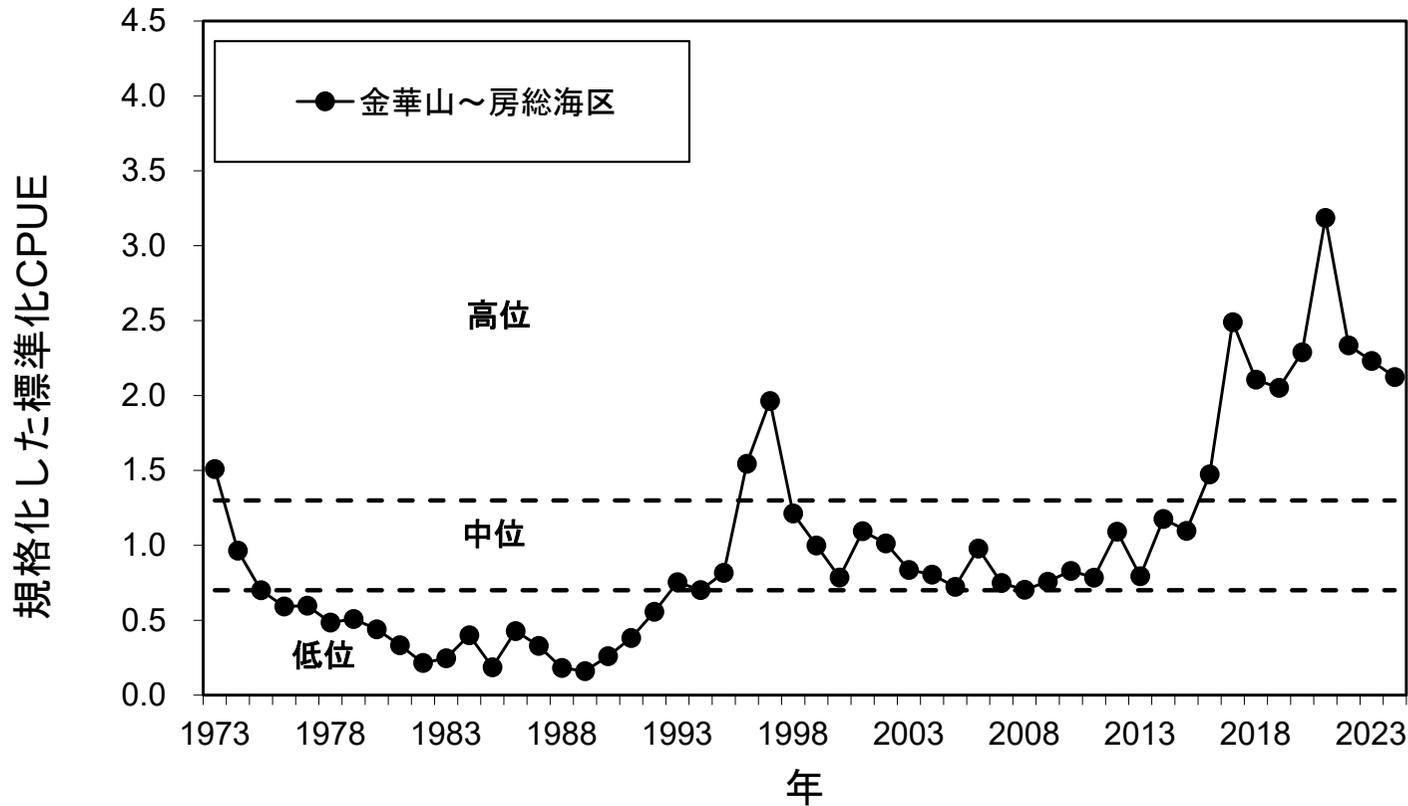


※水準区分 低位／中位：標準化CPUE 0.7、中位／高位：標準化CPUE 1.3  
(平均値が1となるよう規格化した標準化CPUEの値で水準判断)

- 青森県～岩手県は尻屋崎～襟裳西海区の沖底標準化CPUEで判断
- 資源水準：2024年の標準化CPUEは0.99で「中位」
- 資源動向：直近5年間（2020～2024年）の標準化CPUEの推移から「減少」

※標準化CPUE：資源や操業による偏りを取り除いた、1操業当たりの漁獲量

# 資源の動向②



※水準区分 低位／中位：標準化CPUE 0.7、中位／高位：標準化CPUE 1.3  
(平均値が1となるよう規格化した標準化CPUEの値で水準判断)

- 宮城県～千葉県は金華山～房総海区の沖底標準化CPUEで判断
- 資源水準：2024年の標準化CPUEは2.12で「高位」
- 資源動向：直近5年間（2020～2024年）の標準化CPUEの推移から「減少」

# 資源評価のまとめ

- キアンコウ太平洋北部全体の資源水準は「高位」、動向は「減少」
- 標準化CPUEに基づいて海域別に資源状態を求め、全体を判断（漁獲量の多くを占める宮城県～千葉県の状況を反映）

## 2026年ABC

管理基準	Target/Limit	2026年ABC (トン)	漁獲割合 (%)	F値(現状のF値からの 増減%)
0.9・青森県～岩手県Ct・0.93	Target	980	—	—
1.0・宮城県～千葉県Ct・0.95	Limit	1,230	—	—

- 漁業法改正前の考え方に基づく基本規則の2-1)により、 $ABC_{limit} = \delta_1 \cdot Ct \cdot \gamma_1$ で計算
- $\delta_1$ ：青森県～岩手県は0.9（中位水準での推奨値）
- $\delta_1$ ：宮城県～千葉県は1.0（高位水準での標準値）
- Ct：2024年の海域別各県漁獲量合計値
- $\gamma_1$ ：青森県～岩手県は0.93、宮城県～千葉県は0.95（標準化CPUEの直近3年間（2022～2024年）の動向から算定される係数）
- ABCは海域別に算定したABCの合計値